https://printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro

四肢痛症候群

版 2016

7.一過性滑膜炎

7.1どんな病気ですか？
一過性滑膜炎は、股関節の（少量の関節液を認める）軽い炎症で、原因不明ですが、後遺症を残さず自然軽快します。

7.2頻度は？
小児の股関節痛の原因としては最も多いです。3～10歳の小児の2～3%に発症し、男児に多くその男女比は4：3です。

7.3主な症状は？
主な症状は痛みと跛行（片足をひきづるようにして歩くこと）です。股関節の痛みは鼠径部、大腿あるいは膝の痛みと表現される場合もあり、通常は突然出現します。
最もよくある症状は目覚めると跛行したり、歩きたがらないことです。

7.4診断は？
診察所見が特徴的です。発熱のない3歳以上の子どもが、健康そうなのに、跛行を伴って、股関節の動きの減少や痛みがみられます。片側が多く、両側は5%です。股関節のレントゲン写真は正常で、あまり必要とされませんが、超音波検査は股関節の滑膜炎を発見するのに非常に有用です。

7.5治療は？
治療の基本は安静で、痛みの程度に合わせます。非ステロイド性抗炎症薬が痛みと炎症を軽減しますが、この状態は平均6～8日で消失します。

7.6予後は？
予後は良好で、100%の子どもは回復します。もし症状が10日以上持続する場合、別の病気が考慮されるべきです。繰り返すこともありますが、初回より痛みが軽く期間も短いです。